

短期海外派遣報告書

広島大学病院 消化器外科
鈴木崇久

このたび、わたくしは2012年6月1日～6月5日までシカゴで開催されました ASCO2012 に JACCRO 短期海外派遣制度にて参加させていただきました。今回の参加は自分にとって初めての ASCO 参加でまずは学会の規模の大きさに圧倒されました。まさに“井の中の蛙大海を知る“といったところでしょうか。

主に上部消化管領域についての演題を興味深く聞かせていただきました。

心に残った2演題を報告させていただきます。2演題とも非常に大きな学会会場で報告されており、まずそのスケールの大きさに驚きました。

まず WJOG4007 試験の発表を聞かせていただきました。この試験は日本での進行胃癌に対するセカンドラインとして、イリノテカン投与が weekly パクリタキセル投与に対して優越性を示すことを証明する試験でしたが、残念ながら優越性を示すことができませんでした。この結果から「weekly パクリタキセル投与法がセカンドラインの標準療法と考えられ、今後行われる進行胃癌に対するフェーズ3試験の対照群は weekly パクリタキセル投与群になる」とまとめられました。セカンドラインの初めての方針が示された重要な報告と考えました。

続いての報告は乳腺のプレナリーセッションですが、局所進行性または転移を有する HER2 陽性乳癌でタキサン、トラスツズマブによる治療歴がある患者に対し、トラスツズマブ-DM1 (trastuzumab emtansine: T-DM1) は、カペシタビンとラパチニブの併用療法 (XL 療法) と比べて無増悪生存期間 (PFS) を有意に改善し、忍容性も良好であることが第Ⅲ相試験 (EMILIA) で示されました。この結果から「T-DM1 は HER2 陽性で転移を有する乳癌の治療において、重要な治療選択肢になると考えられる」とまとめられており、個人的には近い将来 Her2 陽性胃癌においても新規抗がん剤として新しい治療法が加わるのではと夢が広がる報告でした。

日々発刊される ASCO NEWS の存在には非常に驚かされ、ASCO での情報量の多さ、演題の質の高さに圧倒された5日間となりました。改めて臨床試験の重要性を認識し、日本独自の新しいエビデンスが発信できることを目標として、今後も JACCRO をはじめとした臨床試験に積極的に参加することに意欲がわいてきました。

余談ですが学会の会期中に major league のナイター試合観戦に行くチャンスに恵まれ、mariners のイチローの雄姿を見ることができました。凍えるような寒さの中の試合でしたがこれもまた国際学会ならではの醍醐味でいい経験をさせていただきました。

最後に、このような貴重な機会を与えていただきました JACCRO の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。